

(前頁からのつづき)

本校のひなまつりは、太平洋戦争中も絶えることなく続いており、ひなまつりにつきものの御殿も、初代、二代、三代と篤志家の寄贈を受け、現在は100周年記念の4代目のものである。

当日は、子どもたちの手作りの人形を中心にひな壇を作り、おすし、お菓子、花を供え、会終了後、そのお供えを児童会役員が片倉さんの墓前へ届けるのが習わしとなっている。

また、「キャロル」はベティ・ジェーン(青い目の人形)の送り主であるシドニー・ギュリック氏の孫にあたる、シドニー・L・ギュリック三世氏から、友情・平和・心の交流を推進するために、「世界の子ども友の会」を通じ1987年(平成元年)1月29日本校に贈られて来たものである。同時にキャロルの身分証明書・パスポート及び特別に作られた旅行かばん、着替えが添えられている。

さらに、「アグネス・ジョージア」は本校に在職していた裕美子・マラード(旧姓「門」)教諭のアメリカ合衆国アトランタのご両親から日米間の子どもの友情を願って、1993年(平成5年)3月26日贈られた人形である。

1996年(平成8年)、神山小学校の新校舎及び体育館等の落成を迎えた。体育館の壁面には、「ひなまつり音楽会」をモチーフにしたタイル画が飾られた。その原画は、平成7年度の児童が製作したものである。さらに体育館のステージには、ひなまつり・校歌をデザインした緞帳が取り付けられた。

本校の青い目の人形やひなまつり音楽会の取組は、平成27年に「愛ある愛媛の道徳:3・4年生版(愛媛県教育委員会発行)」に、教材として取り上げられた。続いて、平成29年には、愛媛県青少年赤十字賛助奉仕団の平和学習の資料として取り上げられた。さらに、平成30年度から始まる「特別の教科 道徳」の教科書(3年生用 廣済堂 あかつき社)の教材にも採用されている。

御来場の皆様へ

- 1 演奏途中の出入りは、児童が集中できなくなりますので御遠慮ください。
なお、演奏中は、体育館出入口の扉を閉めています。御了承ください。
- 2 体育館のトイレは使用できません。校舎1階、2階のトイレを使用してください。
- 3 運動場を駐車場として設定しておりますが、混雑が予想されます。近くの方は、自動車での御来校は御遠慮ください。なお、二輪車は自転車置場、バイク置場を御利用ください。

平成29年度



ひなまつり音楽会

「伝統を 心で奏でる ハーモニー」

御 案 内

春の訪れを感じさせる好季節となりました。皆様におかれましては、ますます御健勝のことと思います。

さて、恒例の『ひなまつり音楽会』を次のとおり開催いたします。御多用とは思いますが、御来観いただき、楽しい一日をお過ごしくださいますよう御案内申し上げます。

記

- 1 日 時 平成30年3月3日(土) 13:00 ~ 15:10
- 2 会 場 八幡浜市立神山小学校体育館

八幡浜市立神山小学校 校長 甲野 正人

===== プ ロ グ ラ ム =====

順	演奏形態	テ	ー	マ	出演者
1		開 会 の こ と ば			児童会役員
2	おはなし 全校合唱	ひなまつりのはなし うれしいひなまつり			1年生 全校児童
3	トーンチャイム 演奏	ド レ ミ の う た			1・2くみ
4	歌 合奏	ひなまつり おとのマーチ き ら き ら 星			1年生
5	歌 合奏	い つ だ っ て ! 勇 気 1 0 0 %			2年生
6	管楽合奏	S U N エ ル ク ン バ ン チ ェ ロ			音楽部
休 憩					
7		校 長 あ い さ つ			校長
8	歌 合奏	窓 を あ け て み た ら デ ィ ズ ニ ー メ ド レ ー			3年生
9	歌 合奏	お は よ う の エ ー ル 花 束 を 君 に			4年生
10	歌 合奏	C O S M O S 紅 蓮 の 弓 矢			5年生
11	歌 合奏	記 念 日 ~ 希 望 の バ ト ン ~ 情 熱 大 陸			6年生
12		閉 会 の こ と ば ~ さ よ う な ら ~			児童会役員 6年生

神山校のひなまつり

本校のひなまつりの起こりは定かではないが、明治末からの練習会(学芸会の前身)に端を発し、以来、学芸会、ひなまつり、ひな祭りレクレーション、学習発表会、ひなまつり音楽会と幾多の変遷を経て今日に至っている。

当初は、矢野千束校長(明治42年~大正12年在職)の発案で、「神山の子どもが、心豊かな、やさしい人になるようにと、女の子にはひなまつりを、男の子にはこいのぼりを立てて祝ってやろうじゃないか。」と相談され、学校にひな壇を飾り、その前で歌ったり、踊ったり、本を読んだりしたのが「ひなまつり」の行事の起こりである。

昭和に入り、アメリカ合衆国と日本の少年少女たちを結ぶ友好親善使節「青い目のお人形」1万2千体のうち5千体がアメリカを出発したのは、1927年(昭和2年)1月4日のことである。3月3日には、東京日本青年会館大広間でお人形の「歓迎会」が開かれた。本県に届けられた人形は、216体で、うち第1便166体は3月16日朝、高松港に到着した。「ベティ・ジェーン」が本校に届いたのは4月中であると思われる。以後約1年間戸棚の中で暮らし、翌年3月3日、正式にお祭りに参加した。(1928年【昭和3年】「ベティ・ジェーン嬢、歓迎音楽会」を催す=学校日誌より)以来、3月3日のひなまつりには、ベティ・ジェーン嬢が飾られてきたが、太平洋戦争中は職員室の天井裏に隠されていた。(この人形は現在、全国に60体、県下には本校の1体を含め6体が確認されている。)

そして、このひなまつりに仲間入りしたのが、片倉敏子さんの形見の大和人形である。(片倉さんは神山校の卒業生だけに、昔から続いていたひなまつりが盛大に行われていたことをご存じだった。)

昭和11年3月に本校を卒業された片倉敏子さんは、昭和14年秋、八幡浜高等女学校4年生のとき死去するという悲運に見舞われた。愛しい一人娘の死は片倉さんにとって悲しみも大きく、娘の気持ちを思い、昭和15年3月、母校である神山校に形見として大和人形を寄贈された。当時の谷口徹夫校長は、大和人形のケースの中に以下のように記している。(書、焼田源一郎訓導)

大和人形

氏は前年、女学校修学途上における愛嬢片倉敏子さんの死去に遭遇、痛く悲歎し我が子への愛着切なる余り、母校神山校に本品を背に負い来り、恰も我が愛し子再生を喜ぶかの如く託せり。個人の靈魂ここに宿り、昔懐しのこの学園に千人の児童の嬉戯に囲まれ、永久に微笑むことであろう。

昭和15年3月3日

神山小学校

(次頁へつづく)